

# カナダ海外スキーツアー報告 (2023/1/21-28)

参加者：F (I)、I、H、W (文責)

F (I) さんが企画いただいたカナダスキーツアーに行ってきました。

当初、航空券や宿を個人手配で検討していたのですが、適当な宿を見つけられず、結局パッケージツアーに申し込むのが簡単で安価ということになって、フェロースキーというツアーを利用した。

8日の行程で現地5日間スキー行動ができるので、我々はその中の1日をかねてからの念願であったヘリスキーのオプションにあてた。

1/21(土) 昼、伊丹空港に集合し、まずは成田行のANAに搭乗。伊丹でスキーなどの大荷物を預けるとカナダ・バンクーバーまでは預入荷物は引き継がれる。リフト代やチップ代など最低限のカナダドルを両替(104.23円/ドル)したのち、広い成田空港で迷いながらも、エアーカーナダ搭乗口に到着。2時間以上の遅延でようやく飛行機に乗ることができた。2回の簡単な機内食をあわただしく食べると、さほど時間を感じることなく、バンクーバー空港に到着。

成田同様に広大な空港内を歩いて、入国手続きも難なく済んで、到着出口にたどり着いた。ここで、ツアー会社の案内員が出迎えてくれ、専用バスに誘導された。バス運転手も日本人で、ここまでほとんど英語を使うことはなかった。

ただ、深雪新雪を期待してきたカナダではあったが、外は土砂降りの雨。気温も高い様子であった。

2時間のバス乗車の後、ウィスラーに到着のころは雪に変わって、道路にも雪が積もっていて、バスも多少渋滞ぎみであったが、さほど待たされることもなく、ウィスラービレッジ中心部のホテル(ウィスラービレッジインのパウダー館)に通された。

ウィスラーでも日本人の現地滞在員が、細かく対応してくれ、ホテル部屋の使い方、ビレッジ内の案内、ゲレンデスキーにおけるガイド(5日のうち4日のみ)まで幅広く親切に対応していただいた。

宿はコンドミニウムタイプでキッチン付き。2階にダブルベッドが2個とソファベッドが2個。カナダ滞在中には、近くのスーパーで買い出しした食材を用いてキッチンでの自炊がメインであった。

1日だけ夕食として「The KEG」というステーキレストランに行った。味は良かったが、予想通り量が多く、コースメニューを完食するのに苦労した。

1/22(日) ゲレンデ1日目

リフトは8:15~15:00まで。フェロースキーの参加者9名とガイド1名でゲレンデスキーを堪能することになる。ただこの日は、日曜日とイベントがあったため、ゴンドラは非常な混みようで、ガイド判断でウィスラー山にリフト3本乗り継いでガスが多いゴンドラ降り場まで。しばらく休憩していると天候が回復するとの読みでブラックコム山の方にPeak2Peakゴンドラに乗って移動。7th-HeavenというリフトとTバーリフトに乗り、ほんの少しのカニ足ハイクの後、ブラックコム山の頂上近くのコルに到着。ここから、ブラックコム氷河に滑り込む。

実に雄大な背景に広大なゲレンデが広がっている。降雪量はさほど多くなかったようで、多くの滑降者に圧接された斜面の上に 5 cm 程度の新雪があるが、ノートラックの場所は皆無で、シュプールだらけになっていた。標高が高い分雪質はよく、スキーはよく滑って気持ち良い高速滑降を楽しむことができた。ただ、この日の雪質が最高で、以降の降雪はなく、雪質は悪化する一方であった。

ウィスラー・ブラックコムスキー場の上部は森林限界以上の無木立で、非常に広大である。自然のままの地形に間隔を置いてリフトが配置されていて、その間を林道で結んでいる。例えば、日本の立山や乗鞍岳にリフトを数本設置したイメージで、崖や林間含めゲレンデ内ではどこでも滑走可能である。

## 1/23 (月) ヘリスキー

8:30 にビレッジ内のパウダーヒュッテという場所に集合して、車で 10 分くらいのヘリポートに移動。そこで、ビーコン、プローブ、スコップの 3 種の神器の使い方の説明、ヘリの昇降方法の説明の後、2 グループに分かれて、ヘリに乗車する予定が、この日 AM は雲が晴れず、有視界飛行のヘリは飛ぶことができないので天候回復を待たされる。本来は、山の上で食べる予定の昼食サンドイッチもヘリポートよこで立ち食いして天候待ちを続けて、この日は無理かとあきらめかけた時に、何とか飛べるとのことで急遽、ヘリに乗車する。ヘリパイロットとガイドが、滑り始めの山上の平地と滑り終わりのピックアップポイントの平地がともに視界のある場所をかなりの時間をかけて探しまくり、ようやく視界が開けた山上に着陸した。

もちろんノートラックの斜面をガイドリーダーを先頭に参加者 10 名が順番に滑っていく。ヘリスキーに参加するだけあって、グループメンバーの滑りはかなりうまい。天候も回復し始め、青空も見え始め、最初の 1 本は程よい傾斜の斜面に 10 cm 程度の新雪がのって、気持ちよくシュプールを刻むことができた。ガイドリーダーは途中何度か止まるがテールガイドが到着すると休む暇なくすぐに滑り始める。

ヘリのピックアップポイントまで滑るとすぐにスキー機材を積み込んでヘリに乗り込み、再度山上に移動。3、4 本目には、かなりの急斜面の 1 枚バーンを幅広く滑らせてもらったが、私の滑降技術ではずらしながらゆっくり降りてくるのがやっとならであった。

このヘリスキーツアーは 4 本ランの予定で、一本が標高差約 600m、距離 2 km 程度のものを 4 本、2 時間で繰り返した。結果、かなりあわただしい行動になったが、参加者全員満足していた様子であった。

## 1/24(火) ~26 (木) ゲレンデスキー

1/24 はフェロースキーの参加者とともにゲレンデ内ガイドツアー。25 日は、ウィスラーゲレンデ内ではあるが、一部シール登行するエリアに行ったが、どこもトラックだらけの堅い雪になっていて、快適に滑る斜面はなかった。

最終日の 26 日はフリー滑走であったが、ガスが多く視界が得られず、我慢の滑り。下部の雪質はアイスバーンや一部、土も見えてきた様子で、ホワイトアウト状態になったので、ゴンドラで下山することにした。

## 1/27 (金)

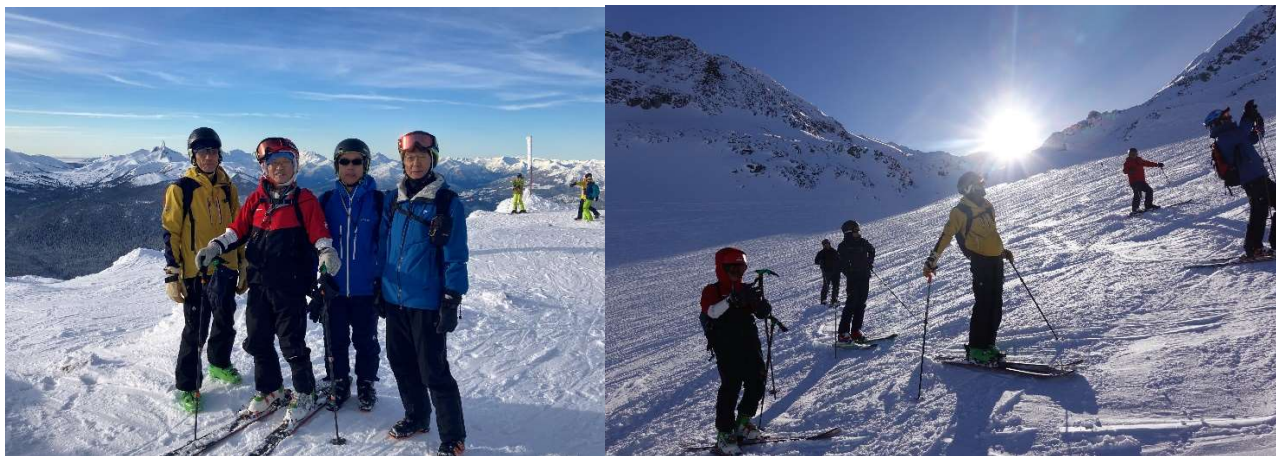
朝から専用バスに乗ってバンクーバー空港まで送迎してもらい、空港でチェックイン手続きを案内員の指示通りに難なく済ませて、成田行のエアーカーナダに搭乗。往路とは違って 30 分遅れのみで出発できた。

成田到着後、VisitJapanWeb でスムーズな入国手続きを終えられて油断したのか、羽田行のリムジンバスに乗り込む時に荷物やパスポートの紛失騒ぎを起こしてしまったが、親切な空港職員に助けられ事なきを得た。羽田からは、神戸空港行きの便に変更してスムーズに帰宅することができた。

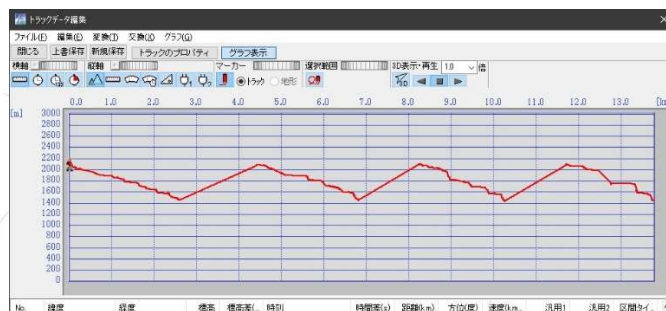
### 感想

概してウィスラーゲレンデは日本にはない、非常に広大なゲレンデ+雄大な絶景が魅力ではあるが、雪質としては、日本の方がよかったという印象であった。ヘリスキーは、非常に貴重でエキサイティングな体験であった。今回パウダー用の太板スキーを持ち込んだが、概して堅いゲレンデには不向きで、周囲にそのようなスキーを履いている人は見られなかった。

かなり費用の掛かる海外ツアーに思い切って参加したが、やはり金銭感覚を麻痺させないと楽しめないと痛感した。



雪質のよかった1日目ゲレンデスキー



ヘリスキーのルートと標高履歴



ヘリコプターとヘリ内の様子（スキー客 10 名乗車でかなり狭い）



ヘリスキー滑降時の様子。